

## 【令和6年度 英語科授業改善推進プラン】

英語科で身に付けさせたい力・目指す生徒像

- ・ CAN-DOリストに基づき、目標をもって英語活動に取り組める生徒
- ・ 失敗を恐れず、積極的に英語を話せる生徒
- ・ 中学校卒業後も、継続的に英語学習に主体的に取り組める生徒

学習状況及び課題

	1 学年	2 学年	3 学年
学習状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音読や発表において、積極的に声を出して取り組む生徒が多い。パフォーマンステストにも前向きに挑戦する生徒が多い。</li> <li>・ 英単語を発する、読むことができるがそれを文字として書くことを苦手とする生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多くの生徒が授業中の活動に意欲的に取り組んでいる。パフォーマンステストにも向上心をもって取り組んでいる。</li> <li>・ 英単語や英文を発したり、読んだりすることはできるが、文字として書くことを苦手とする生徒がいる。</li> <li>・ 課題を提出できなかつたり、パフォーマンステスト等の事前準備ができなかつたりする生徒が固定化しつつある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業に意欲的に臨み、与えられた課題にしっかりと取り組む生徒が多い。</li> <li>・ 定期テストの単語や英文を読んで理解する問題の正答率が全体的に高い。2年生に比べて、点数は上がったが英文法の問題の正答率が低い。</li> <li>・ スピーチの準備が原稿の作成のみにとどまり、英語らしい発音やリズムを意識した練習が不足している生徒が多い。</li> </ul>
指導上の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話を聞いていないために指導を聞き逃す生徒がいる。</li> <li>・ 教科書の音読に時間がかかる生徒がいる。また、書字に課題のある生徒もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習習慣の確立に課題を抱える生徒がいる。</li> <li>・ 教科書の音読に時間がかかる生徒がいる。また、書字に課題のある生徒もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一部、英語学習に対する強い苦手意識をもつ生徒がいる。</li> <li>・ 自分の考えを即興で伝える活動に苦手意識をもつ生徒が多い。</li> </ul>

改善プラン

	1 学年	2 学年	3 学年
学習面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークを宿題として課し、授業で学習した内容を家庭で復習する習慣を身に付けさせる。</li> <li>・ ビンゴやペアでの単語の確認など、単語を書いたり、意味を覚えたりする活動を帯活動として日常的に取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークを宿題として課し、授業で学習した内容を家庭で復習する習慣を身に付けさせる。</li> <li>・ 音読練習等、習熟度によって学習ペースに差が出る活動については一人一台端末を活用し、個人のペースに合わせた学習環境を設定する。</li> <li>・ ビンゴやペアでの単語の確認など、単語を書いたり、意味を覚えたりする活動を帯活動として日常的に取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業内で、英作文に取り組む機会を増やし、既習の語彙や文法事項を活用させる。</li> <li>・ スピーチに向けて練習をする時間をALTの授業内に設け、ALTによるフィードバックを活用させる。</li> <li>・ ESAT-JのPart C、Dに向けて簡単な英語を使って絵の内容を表現したり、自分の考えを伝える練習を行う。</li> </ul>

指導面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の指示は、全員の顔が上がっていることを確認してから行う。</li> <li>・音声と文字の関連性（フォニックス）について副教材を活用して繰り返し指導し定着させる。</li> <li>・デジタル教科書の音声を聞きながら音読するよう指導する。教科書の音読を宿題として課し、定期的にパフォーマンステストを行うことで評価を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内で、音声と文字の関連性（フォニックス）について意識を高めながら音読指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見や考えについて即興で話す活動を多く設定し、学習した知識を活用することを意識させる。</li> <li>・デジタル教科書を活用し、生徒が個人のペースで英文を読む時間を設け、英語らしい発音やイントネーションに意識を向ける機会を増やす。</li> <li>・2学期後半から帯活動として、100語程度の読解を毎回行い、長文対策を行う。</li> </ul>
-----	---	---	---

評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>①授業アンケート結果による達成度評価</li> <li>②パフォーマンステストの結果</li> <li>③定期テストの結果</li> </ul>
---